



## PROJECT

## 企業・NGOと共に カカオ産業から 児童労働を撤廃する

### ガーナ政府が認定制度を導入

ガーナでは、農林水産業を中心におよそ5人に1人の子どもが、児童労働に従事しているとされています。

ガーナ政府は児童労働問題を解決するための条例や取り組みが機能している地域を「児童労働フリーゾーン(CLFZ)」に認定する制度をつくり、2020年3月にそのガイドラインを公表。CLFZ制度に対する関係者らの期待が高まる一方、ガーナ政府は、ガイドラインを運用していくための技術支援を必要としていました。

JICAは、2019年に日本の企業や消費者にも関係が深いガーナのカカオ産業に着目して、児童労働に関連した取り組みを開始。2020年1月には社会的、経済的、環境的に持続可能なカカオ産業の実現を

目指す国内の業界団体や企業、NGOなど関係者の共創・協働の場として「開発途上国におけるサステナブル・カカオ・プラットフォーム」を立ち上げました。

### プラットフォームの活用に向け調査

またJICAは、このプラットフォームと連携してガーナ政府の児童労働の撤廃に向けた取り組みを促進し、SDGsの達成に貢献するため「カカオ・セクターを中心とした児童労働に係る情報収集・確認調査」を実施しました。

この調査では、CLFZ認定に必要な人材の育成や評価方法の開発などを実施。また、実際にCLFZのガイドラインに沿って、認定指標を充足するためのパイロット事業を行いました。

その結果、児童労働問題に関係するガーナの政府機関や支援団体の連携強化のほか、ガイドラインの実施に向けた資金確保などの必要性が確認されました。また、プラットフォームを通じて日本側関係者間の連携を促進することで、個別で取り組むよりも多くのノウハウや資金などを動員できる可能性も確認されました。

JICAは今回の調査で得られた情報を踏まえ、国内外の関係者と共にガーナの児童労働撤廃に向けた取り組みに引き続き協力していきます。



ガーナ：幼稚園で学ぶカカオ生産コミュニティの子どもたち

## DATA

カカオ・セクターを中心とした  
児童労働に係る情報収集・確認調査

対象国  
ガーナ

協力期間

2020年10月-2022年6月

## VOICE

### CLFZへの理解と自覚が深まりました

ガーナ雇用労働関係省 児童労働ユニット長  
エリザベス・アカンボンバイアさん



CLFZガイドラインでは、児童労働問題に関わる関係機関やコミュニティなどの役割と責任が決められています。JICAの協力で開催したワークショップなどを通じて、その理解と自覚を促し、連携強化を図ることができました。今回の調査で提言された改善すべき点を踏まえて、すべての子どもたちの健やかな発達を実現したいと思います。